

美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第2回）

議事要旨（案）

日 時：平成28年11月14日（月） 10:30～16:15

場 所：三峰川現地および伊那市役所502会議室

【議事】

1. 現地視察
2. 現地視察後の感想・意見

【議事要旨】

1. 現地視察

事務局説明 ■ 事務局より美和ダム上下流の現状とこれまでの検討について

主な意見等 ● 委員全員が確認

3. 現地視察後の感想・意見

事務局説明 ■ 事務局より自由意見を要請

主な意見等 ● 排砂の基本的な考え方として、土砂を可能な限り自然な状態で下流に流下させることが必要であり、細粒土砂対策としてどのように実施・運用していくかが重要である。

● 土砂の移動状況のモニタリング方法として、ストックヤードの吐口を含めて、下流に流下する材料の粒径および量を把握する必要がある。併せて、その時の土砂バイパスの影響（摩耗）について確認する必要がある。

● 物理環境のモニタリング方法として、山室川・藤沢川の流入土砂はある程度見込まれるので、本川との関係を整理する必要がある。

● 水環境のモニタリング方法として、上記点や支川合流後の濁度変化などを把握するために、(現在の)三峰川橋以外に濁度計を縦断的にできるだけ配置し、継続的に観測した方がよい。

● 生物環境のモニタリング方法として、高濃度濁度の流下時における生物の避難場所の存在が重要であり、農業用水の流入箇所や河道内における湧水など、避難場所の存在確認や場所の確保に向けた検討が必要である。

● 生物環境のモニタリング方法のうち付着藻類の分析は、Chl-a と強熱減量を行うのがよい。

- 生物環境のモニタリング方法として、これまで実施してきたモニタリングを継続して行くことを基本に考えることでよい。
- 生物環境のモニタリング方法とし、高遠ダムがあることがどう影響するかについてモニタリングしていく必要がある。
- 高遠ダム貯水池の堆砂状況について、貯水池内の堆砂形状（堆砂肩）と粒径の関係が特徴的であることから、この原因を堆砂履歴から確認する必要がある。
- 水環境のモニタリング方法として、出水時における高遠ダム下流の濁水流下濃度の縦断的变化を把握することが必要であり、高遠ダム管理用発電工事に伴う放流が行われているタイミング（現時点）での調査も有効である。
- モニタリング調査期間について、出水時の高濁度ピーク時など短期的な視点に加えて、濁水長期化低減などの中期的な視点も必要である。
- 分派堰、トラップ堰上流における堆砂状況を踏まえて、計画している流下土砂による分派堰上流（直上流を含む）の維持管理河床高を検討する必要がある。

以上